



基調講演とシンポジウムで講演された方々
(左から外山先生、美甘先生、乾先生、戸田先生、馬場先生)



開会の挨拶をされる大山御貫首



富士行者祈りの路を行く



「いちようホール」には大勢の人々が訪れた



滝行を修する学会員



菅谷執事長祈師のもと、柴燈大護摩供が厳修される

第三十六回 日本山岳修験学会 「高尾山学術大会」盛大に開催される

九月二十六日(土)～二十八日(月)



修験学会の会員の皆様により研究発表が行われた。写真は城崎先生による発表の様子。

去る九月二十六日から二十八日にかけて、第三十六回日本山岳修験学会「高尾山学術大会」が行われました。

この学会は、山岳信仰や修験道の研究を行っている歴史学や民俗学などの研究者で組織されており、毎年全国規模で開催され、今回が初の東京都内での開催となりました。

学術大会は八王子市芸術文化会館「いちようホール」において、大会総裁である大山隆玄御貫首、大会実行委員長の石森孝志八王子市長、そして日本山岳修験学会々長・鈴木正宗崇先生のご挨拶により開会されました。

初日は研究者の他に一般の方々も大勢訪れ、「高尾山の信仰と江戸・東京・多摩」をテーマとした、講演を聴講しました。馬場憲一先生により、薬王院の古文書の研究成果を基に解説された基調講演に続き、公開シンポジウムでは、パネリストを務めた外山徹先生、美甘由

紀子先生、乾賢太郎先生、戸田令定先生の順番で、それぞれ高尾山と地元との関わりの歴史的展開や、高尾山修験道についての講演をされました。

二日目も引き続き「いちようホール」にて、学会員の皆様による研究発表が行われ、高尾山報に連載中の城崎陽子先生も発表されました。

最終日となった三日目には、三コースに分かれて巡見が行われました。琵琶滝にて滝行を修し、薬王院に参拝するコース、山頂から更に足を延ばして相模原市方面まで練行を行い、富士道者が歩んだ祈りの路を行くコース、八王子城跡や八王子市郷土資料館等の八王子市内の文化財を見学するコースがありました。

その後、巡見参加者が合流し、高尾山麓の自動車祈祷殿大広場において、柴燈大護摩供が厳修され、本年の山岳修験学会が無事に閉会されました。